

【注意点1】

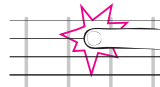


タッピング時の正しい右手の軌道を確認!

タッピングは、弦を真上から叩き、1弦側か6弦側に軽く引っ掛けるようにプリングするように心掛けよう(図1-a & b)。弦を斜め上から叩いたり、指を強く引っ掛けながらプリングすると、ピッチが上がったり、弦がネックから外れてしまうことがあるので注意してほしい。リラックスしながら、右手をスムーズに動かしていこう。

図1-a タッピング時の指の角度

○ 真上から叩くパターン



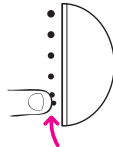
弦を持ち上げることはなく、ピッチも正確。

× 斜めから叩くパターン

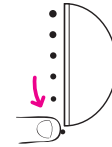


弦を持ち上げてチョーキングしてしまうので、ピッチがズレる。

図1-b タッピング時のダメなプリング例



弦を持ち上げて、音程を上げてしまう。ノイズも多いので要注意だ。



弦がネックの下に外れてしまう。音にならないのでNG!

【注意点2】



指を大きく振り上げて弦をしっかり叩くべし!

メイン・フレーズ3小節目1拍目は、押弦力の弱い薬指と小指を使用するので、自分がイメージしているよりも指を大きく振り上げるように心掛けるとよいだろう(写真①~③)。また、小指のハンマリング時には、人差指と薬指の押弦をキープしておくことも大切なポイントになる(写真④)。



2弦13fのタッピング時。人差指はしっかり押弦しよう。



右手のプリングで2弦5fへ。薬指を振り上げておこう。



薬指の先端を使って、2弦7fをハンマリングしよう。



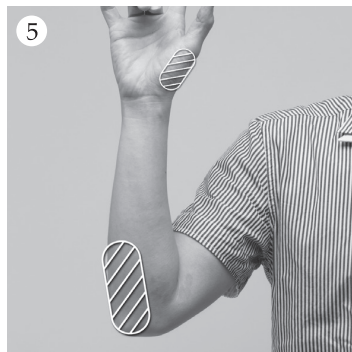
小指も力を入れて、8fを的確に叩いてもらいたい。

【注意点3】

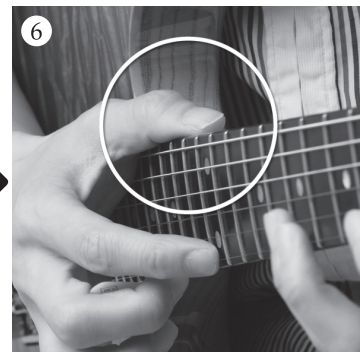


親指の付け根&ヒジで余弦をミュートせよ!

タッピングの演奏時には、右手の親指の付け根付近でタッピングするフレット周辺、ヒジで低音弦の余計な振動を抑えよう(写真⑤)。また、右手のフォームが不安定になると、発音はもちろん、ミュートもしにくくなるので、右手の親指をネックの上部に置いて、フォームを安定させることが大切だ(写真⑥)。



親指の付け根とヒジの両方を活用して、余弦のミュートを確実にこなそう!



右手の親指をネックの上部に置くと、右手のフォームが安定するだろう。

【タッピング】 タッピングを行なう指は、人差指か中指になるだろう。人差指を使う場合は、ピックを中指の裏に挟むようにしながら、素早く持ち替えることが大切なポイントになる。